

緑鳳学会第29回大会（2020年度） パネルディスカッションの概要

多発する自然災害を学際的に問う —復旧、復興の現実と防災の方向性—

座長・近 江 吉 明

- 報告Ⅰ要旨 繰り返される異常気象下での新型コロナウイルス流行の要因を考える
—14世紀ヨーロッパにおけるペスト流行との比較を通して— …近 江 吉 明
- 報告Ⅱ要旨 日本古代における気候変動と国家 —8世紀初頭の災害対策— …田 中 禎 昭
- 報告Ⅲ要旨 東日本大震災を振り返って……………李 東 勲
- 報告Ⅳ要旨 現代における企業の内部統制とその方向性……………久 保 成 史

標記のテーマでパネルディスカッションを開催した。2019年末に機関決定した段階では、新型コロナウイルスの大流行は当然のごとく想定していなかった。その段階では、東日本大震災以降、様々な形態の自然災害が毎年のごとく発生し被害の規模も激甚化する方向にあることを学際的に捉えなおし、とりわけ、各災害の復旧・復興の実態を明らかにしながら防災の在り方を問うという認識の下に始まった。しかし、2020年3月にWHOがこの新型コロナウイルスの流行がパンデミックになったと発表してからは、当該パネルの枠組みに感染症の問題も含めざるを得なくなった。

それにしても、東日本大震災以降の自然災害の発生頻度とその被害規模の大きさには驚かされる。まず、地震と火山噴火は、直接的には日本列島が抱えている地質学的な特徴と地殻変動の長期波動の中での科学的データに基づく予知と予防（最も心配されるのが大都市の対策）が求められるとして、他方で、地球全体を覆うようになった温暖化を主たる要因として発生する自然災害は、我々人類がとりわけ産業革命以降において進めてきてしまった多方面における地球環境破壊行為の結果であるがゆえに、今、人は地球上でどのように生きていくべきかの決断が迫られている。果たして、それは世界中で取り組みが加速化されているSDGsに込められた諸課題の達成だけで済むものなのかどうかの検討も始まっている。

当パネルディスカッションでは、以下の各パネラーの論点の提起から明らかなように、そうした問題意識の下で議論を深めた。歴史学分野からは過去の体験に学ぶ視点から、経営学の分野からは被災体験とその後の復興の実践から、会社法の分野からは経営倫理の在り方からの分析があり、そして、フロワからのそれぞれの専門的知見に基づいた意見の提示により、今回のテーマの諸課題に接近することができたように思う。